間違いなさそうでした。

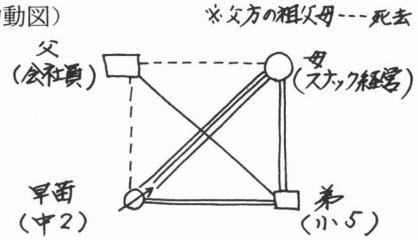
「圭子先生，実はちょっと相談があるんですがよろしいですか。今まで，養護教諭の南先生に相談していたんですが，圭子先生にも一緒に家庭訪問をしたり，本人との面接をしてほしいんです」

隣の保健室に，南先生の気配がしました。圭子先生は，自分にできるかな，と思いつつもっと話を聴いてみたくなりました。

「家族カウンセリングという考え方があるの。ちょっと説明していいかしら」

南先生は，紙を取り出して，次のような図を描きました。

（家族力動図）



「早苗ちゃんの家族関係を図にすると，たぶんこんな感じかしら。実線は，本数が多い程結びつきが強いということ，点線は，交流が非常に少ないということね。母親と早苗の結びつきは，相当に強いけれどその分，父親とのかかわりはほとんどなさそうね。夫婦がいったん別れた時，母親が子供を引き取ったせいでもあるわね。復縁こそしたものの，“家庭内離婚”の状態は今も続いている・・・・問題は早苗ちゃんがそれをどう受け止めているかということね」　南先生は，よどみなく説明し，佐藤先生はしきりにうなづいています。

「不登校の原因は，いろんなものが複雑にからみあった結果だと思うけど，家庭内の夫婦関係が大きな要因を占めていることは間違いないわ」

南先生によると，家族関係に問題がある場合，その矛盾を家族の誰かが端的に『問題行動』の形で表現するのだそうです。例えば，家庭内孤立児が，問題を起こすことで家族の注目を引こうとしたりするのは，その良い例と言えます。

「理想的な家族の関係を示す図なんか，あるんでしょうか」圭子先生は，質問してみました。

「ないことはないけど・・・・そうね，まず夫婦関係がしっかりしていて，親子関係が信頼と愛情で結ばれていることかしら・・・・あたりまえかも知れないけど・・・・」

「うーん，北川の不登校の背景にはやはり家族の問題があるんですね。でも，どうやってアプローチするのかなぁ。学校に呼んだ上で，問題点を厳しく指摘して，みっちり反省を求めますか」

南先生は，おかしくてしようがないという風に笑って答えました。

「担任の説教だけですぐ解決するならね」

母と娘・・・・

翌日の夕方，圭子先生は佐藤先生とともに，北川早苗の家を訪問しました。

平屋立ての小さな家ですが，庭はかなり広く，早苗はそこで小学５年の弟と一緒にいました。しかし，佐藤先生の姿を見るや否や，早苗は家の中に飛び込んで，内側から鍵をかけてしまいました。この日は無理をせず，また日を改めて訪問することにしました。

２日後の昼すぎ，早苗を警戒させないために，圭子先生は一人で家庭訪問をしました。

玄関で，「ご免ください」と３度程呼ぶと，母親らしい小太りの中年の女性が出てきました。

「あのぅ，わたし，Ａ中学校の和田と・・・・」

「あのね，誰もわざと休ませてんじゃないのよ。親よ，親なんだからね。行かせようとしてなんぼ苦労したか。そこまでひっぱっていくと，ほれ，そこの公園でわんわん泣きだして・・・・世間体というやつだってあるんだかんね。先生方は何かと言えば親のしつけが悪いって言うでしょ。そりゃ悪いですよ，悪いに決まってますよ。だけどね」

「あのぅ，本当に・・ご苦労なされたんですね」

矢継ぎ早にまくしたてられて，圭子先生はそれだけ言うのが精一杯でした。ところが，そう言われたとたんに，母親の顔にあっけにとられたような表情が浮かびました。

「わたし，国語を担当している者ですが，今日